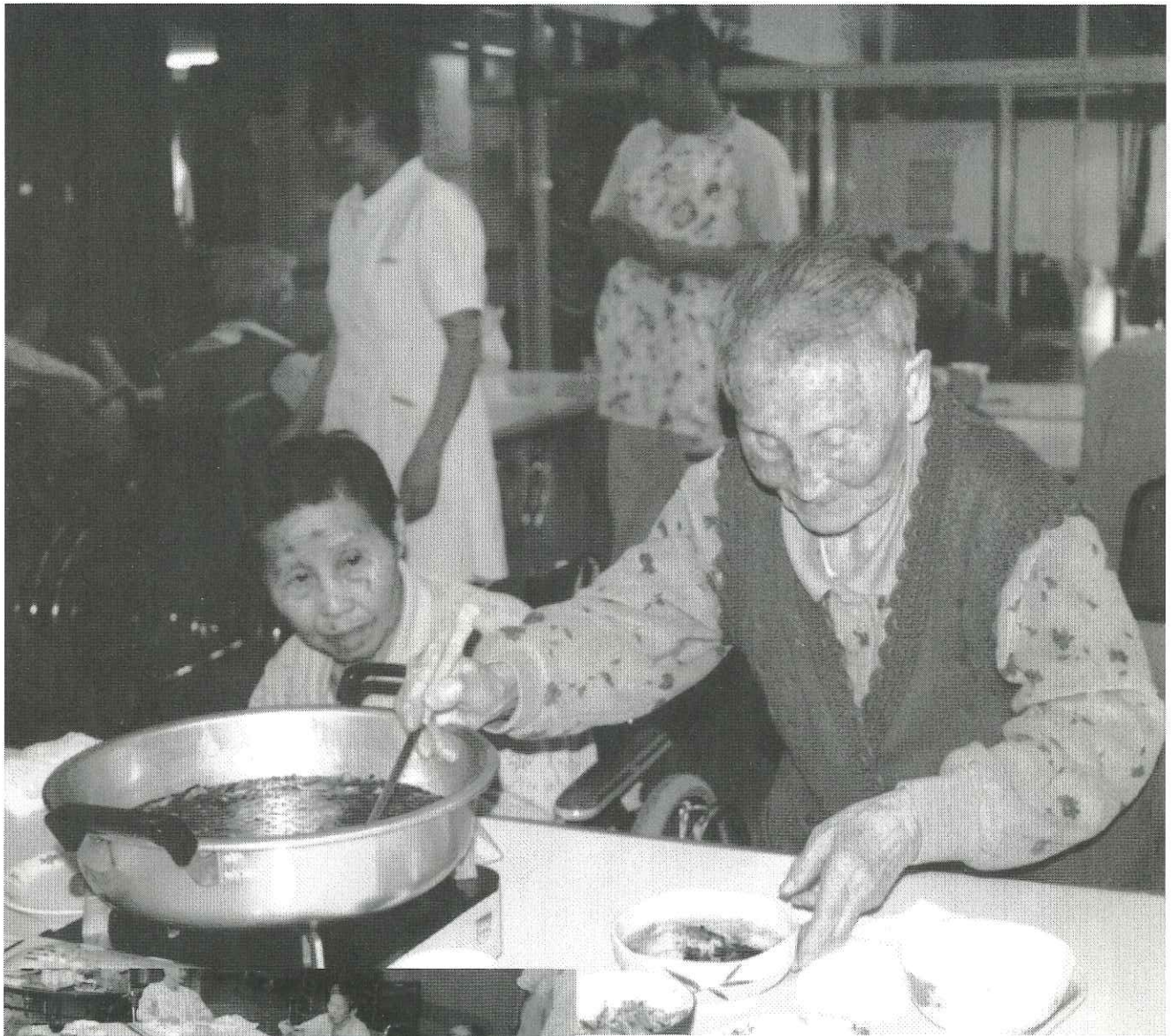


森泉荘だより

発行日
平成19年5月1日

〒018-4515 北秋田市阿仁前田字下前田家の下モ28番地
特別養護老人ホーム 森泉荘
TEL (0186) 75-3204 FAX (0186) 75-3205
メールアドレス shinsensou@gamma.ocn.ne.jp

No. 38



ほっかほっかだねー

冬の間、月1回行なっている鍋料理の会。寒い季節には温かい鍋を囲むのが一番です。この日も山海の食材で彩られた寄せ鍋を前にあつあつをほおばりました。利用者たちの顔も自然とほころびます。一家団欒の雰囲気満喫し、身も心も暖まるひとときを過ごしました。

春を待つ 遊びや節句

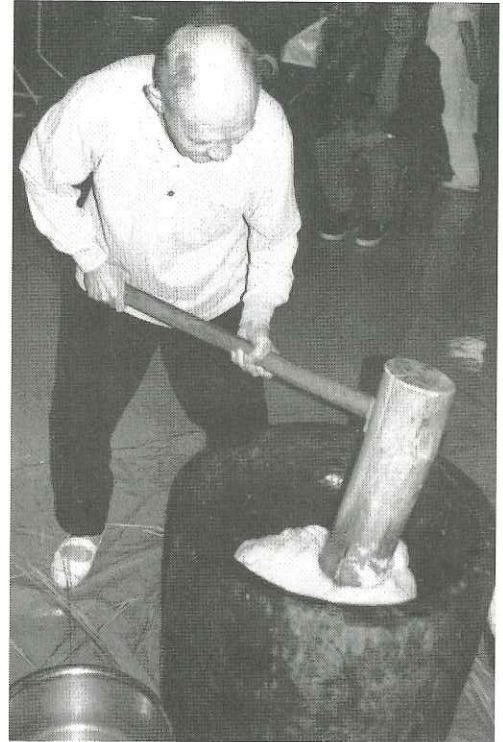
—童心に返りわいわい—

懐かしの

もちつき大会

森泉荘では毎年昔ながらの杵と臼での餅つきが行われます。姉さんかぶりのアイドリを打つ手も、二度目の挑戦とあって本人は自信满满であつたが、タイミングが合わなかつたりと、ちよつと危ない光景も見られました。利用者の方から「もつと水をつけて頑張れ」と声援がかかり、見るに見かねて飛び入り参加。まさに昔とつた杵ズカといつたところ。

「よいしょ！よいしょ！」のかけ声で、アイドリを打つ手にも力が入る。つきあがつた餅は、利用者、職員の手際よさで、たちまちお供餅が出来あがりました。利用者の方曰く、「昔は何斗も臼でついてもんだ。臼でついた餅は格別おいしい。」



宝引大会

年の始めの運だめし。恒例の宝引大会が行われました。ヒモに結んだ番号札を引き寄せるとズラリ並んだ“豪華”景品が当たります。賞品を手に一喜一憂する皆さんの顔が童心に返って輝いていました。



節 分

毎年恒例の節分が2月1日行われました。鬼が登場するとなぜかあちらこちらで笑いがあり、なごやかな雰囲気で行なわれました。鬼に一生懸命に豆をぶつけている人もいれば、すぐに食べてしまう人もおり、さまざまな「オニは外」でした。



ひな祭り

三月一日、ひな祭り行事が行われました。利用者の皆さんは実習生や職員と一緒に、色とりどりの折り紙で一文雛を製作。その後「うれしいひな祭り」を歌い、配られた甘酒とお餅をいただいて桃の節句をお祝いしました。

ボランティア

ありがとうございます

今期もたくさんの方がボランティアに来て下さいました。地域の婦人会、趣味の会の仲間等様々なグループですが、月に一回顔を合わせる皆さんの定例の場となっているようです。オムツを畳みながらの仲間同志の会話が弾み、陽気と活気に満ちあふれています。

また、前田小学校の児童もオムツ畳にチャレンジ、奉仕の心を育みました。今の子供たちにとって布のオムツを見るのも初めて。テーブル一杯に広げて悪戦苦闘していましたが、最後には上手に畳んでくれました。



▲巻瀨婦人会



▲森吉地区民生児童委員



▲細越婦人会



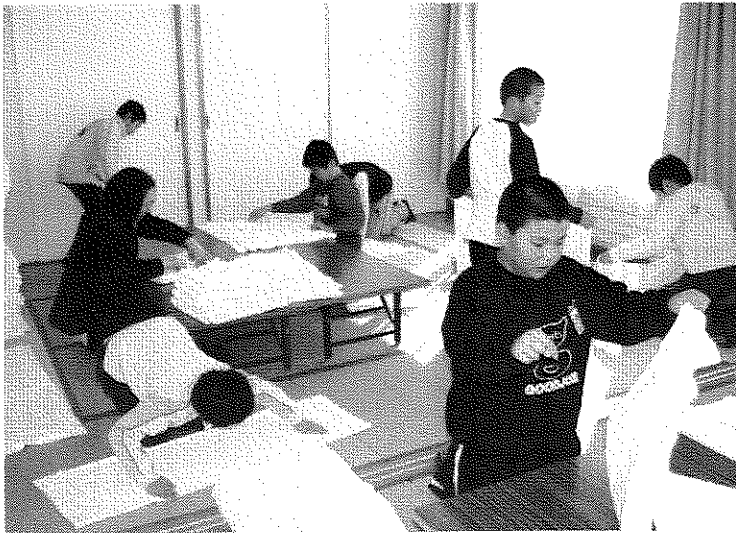
▲桂瀬婦人会



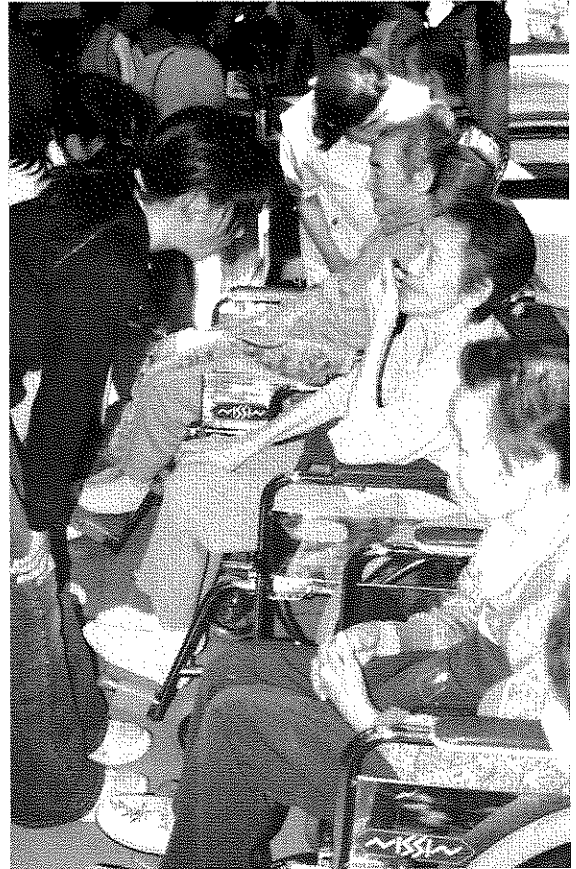
▲桂瀬婦人会



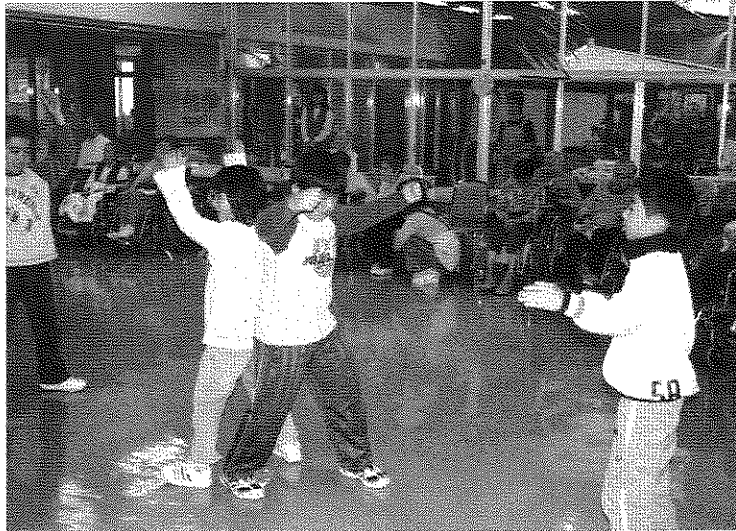
▲森吉婦人会 米内沢



▲前田小学校4年生によるおむつたたみ



▲前田小学校6年生とのふれあい



▲前田小学校3年生によるダンス



▲元気のあるふる踊りに目を細めて



▲米内沢更生保護婦人会



▲小又婦人会

ボランティア紹介

(H18. 11. 1~H19. 3. 31)
敬称略

作業奉仕

(団体)

- 森吉婦人会 小又支部
細越支部
神成支部
巻渕支部
堺田支部
桂瀬支部
前田地区
米内沢地区
- 森吉地区民生児童委員協議会障害者部会
- コスモス会
- 米内沢更生保護婦人会

(個人)

- 佐藤 栄子
- 細田 怜子
- 松橋 キノ
- 石郷岡ヒサ
- 九嶋シヅエ
- 北村レイ子
- 疋田 博子
- 近藤 ミヤ
- 工藤 冴子
- 嘉成ムツ子
- 金 シキ子
- 九島 トイ
- 九島 サダ
- 九島 キヨ
- 九島 チヨ
- 九島 テイ
- 武石 イツ
- 鈴木ミツエ

善 意

(H18. 11. 1~H19. 3. 31)
敬称略

(団体)

- 財団法人 日本レコード協会
- 五味堀中老婦人部
- 小又婦人会
- 細越婦人会
- 福田薬局
- 西根鍛冶店

(個人)

- 菊地 康子
- 金田 幸助
- 土佐 伸一
- 田中 祐一
- 北林エツ子
- 小野寺まり子

受入・研修学習状況

(H19. 11. 1~H19. 3. 31)

- TBKメディカルスクール訪問介護員2級課程養成研修
(平成18年10月11日~12月7日 1名)
- 秋田看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科施設実習
(平成19年2月26日~3月30日 2年生 2名)
- 前田小学校施設訪問 (ふれあい体験)
(平成18年11月1日 3年生 18名)
(平成18年11月9日 6年生 30名)

こ ら む

毎日当施設の給食づくりに
従事しているわけですが、そ
もそも「食」とは何か？人が
生きていく上で必要なのは言
うまでもないのですが、生活
している中で大きな楽しみで
ある事を忘れてはいけな
いと思ひます。

利用者個々の嗜好は十人十
色。咀嚼しやく能力も様々です
かむ力のない方には刻んで提
供してはいますが、食材の形も
なくなり、料理本来の姿も失っ
てしまふ残念です。料理を味
わうにあたって目で見ると美し
さも大切な事。しかし、個々
に合わせた食事形態が基本な
ので、しかたがないのかもしれ
ません。

それとも、あくまで「個々
に合わせた食事形態」を唱え
究極を追求するならば、一端
本来の姿のまま食卓に並べ利
用者の目の前で個々に合わせ
た調理を展開する方法も「方
法論」としてないわけでもあ
りません。

しかし、限られた時間内に
集団的提供を余儀なくされる
現在の施設機能の中では限界
がある——というのが現実です。
日々疑問を持ちながら、で
きる限り利用者に喜んでいた
だける様励んでいきたいと思
っています。

(A・Y)